

2019年(令和元年)7月12日(金曜日)

思い出とは、自分が生きてきたことの証(あかし)であり、自分の尊厳に結びつくものです。お年寄りにとって、いちばんの財産は、これまでの人生で築いてきた思い出といえるのではないのでしょうか。それは子供のころの思い出や、青春時代の思い出、仕事やライフワークにまつわる思い出、結婚式の思い出、子供との思い出、友人・知人との思い出など、悲喜こもごもの思い出が詰まった、大切な歩みでしょう。お年寄りはこれらをゆつたり



「思い出」は生きてきた証

道徳で人と社会を幸せに

と語りながら、自分の歩んできた道に思いを馳(は)せるのです。こうした話を聞くことは、その人の生き方を知ることであり、その人のいのちの鼓動を聞いていくといってもよいでしょう。その中には、話を聞く若い世代が体験し得ない出来事も多々あるはず。話を聞く側も、そこから元気と勇気、そして生きていくうえでの励みを得ることでしょう。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル」の心を育てる言葉366日

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2019年(令和元年)7月19日(金曜日)

手紙の魅力や書き方について多くの著作があるエッセイストの清川妙(きよかわたえ)さんは、次のように述べています。「気働きというのは、相手の状態、心理をよくわかった上で、その人の側にまわりこんで考え、行動すること。やさしさの片鱗(へんりん)がチラとこぼれ落ちるとき、相手はそれに向たれるのです」(『今日から自分磨き』清流出版)



宛名書き一つにも心を込める

道徳で人と社会を幸せに

が通い合う豊かなコミュニケーションが生まれるとき、喜びの多い人生が開かれていきます。メールも手紙もコミュニケーション手段の一つですが、単なる道具(ツール)としてとらえるのではなく、件名や宛名書き一つにも、相手への思いやりの心を込めて認(た)めたいことを心がけたいものです。その積み重ねが、自分自身の心を育てていくことでしょう。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル」の心を育てる言葉366日

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2019年(令和元年)7月26日(金曜日)

子供が初めて料理に挑戦したと言ったとき、皆さんはどんな言葉をかけるでしょうか。「危ないから触っちゃだめ」なんでもやってみなさい……。子供が失敗したときや、壁にぶつかって苦しんでいるとき、大切なのは親の態度です。親の信頼や応援を実感している子供は、失敗を素直に受け入れて、その体験から学び、挫折(げせつ)を乗り越える力を身につけていきます。「だからだめだと言ったでしょう」などと言ってその行動を否



「成長しようとする力」を信じる

道徳で人と社会を幸せに

定しては、子供のやる気を失わせてしまいます。親は子供の失敗を否定的にとらえるのではなく、成長過程に必要な体験であると考えてみることで、子供の取り組みをまづ認め、焦らずに、子供自身が持っている「成長しようとする力」を信じて、じつと待つことも大切ではないでしょうか。それは、子供が「挑戦することの意味」を見いだすためにも必要なことなのです。「ニューモラル」の心を育てる言葉366日

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル」の心を育てる言葉366日

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2019年(令和元年)8月2日(金曜日)

**心** **自他共に輝く生き方**

映画やドラマには主役がいて、脇役がいます。脇役がいることで主役が輝き、主役が輝くことで映画やドラマ全体が輝きます。人生という舞台では、主役と脇役は表裏一体の関係です。どちらも私たち自身の姿であり、大切な役割なのです。

家庭においては、夫を輝かせるのは妻であり、妻を輝かせるのは夫です。子供を輝かせるのは親であり、親もまた子供によつて輝きます。職場にあつては上司を輝かせていくのは部下

道徳で人と社会を幸せに

であり、部下を輝かせていくのは上司です。

私たちの人生は、他者と関わり合いながら生きていくものです。そうした中で、主体的に他者を輝かせようと努力する人は、自分自身も喜びを得ることになります。この生き方が「自分も他者も共に輝く生き方」につながっていくといえるのではないのでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉』366頁

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2019年(令和元年)8月9日(金曜日)

**心** **気づいていますか? 身近な「宝物」に**

私たちはいろいろな欲求を持つていて、「これが欲しい」「ああなりたい」「こうしてほしい」と、いつも何かを求めています。しかし、求める心ばかりが強いと、今すでにあるものが見えなくなったり、今すでに持っているものよさを忘れてたりしてしまいます。人に対しても自分に対しても、ないものねだりをして嘆いたり、悲しんだり、愚痴をこぼしたりするよりも、身近なところにある「宝物」にもっと目を向けて、その一

道徳で人と社会を幸せに

つ二つを丁寧に味わいたいものです。

妻が夫の、夫が妻の、親が子の、子が親の、上司が部下の、部下が上司の、「すでにある美点」を再発見し、これを忘れることなく凝視し続けていきましよう。そして自分自身をも見つめ直して、お互いが「かけがえない宝物」であることに気づけば、毎日の生活は喜びに満ちていくことでしょう。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉』366頁

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2019年(令和元年)8月16日(金曜日)

**心** **受け継ぎたい「知恵」と「心」**

「経験は知恵の父、記憶は知恵の母」といわれます。長い時を生き抜いてきたお年寄りの「人生の先輩」としての知恵や、心がけてきた生き方には、これからの時代にも受け継ぐべき事柄が、数多く含まれています。例えば感謝の心、子供や孫への思い、物を大切に作る心がけなど……。それらは、かつて先輩たち自身が、さらに上の世代である両親や祖父母、または身近に接してきた大人たちの生きる姿から、自然に学び取ってき

道徳で人と社会を幸せに

たものなのでしょう。親から子へ、子から孫へと連続と続いてきた「いのちのつながり」と同じように、私たちが生きる「今」の背後には、生き方や大切な心を代々伝えてきてくれた、数限りない「人生の先輩」たちが存在するのです。

私たちは、そうしたつながりの中に生きていくという自覚を持ち、受け継いだものを次代へと大切に伝えていきたいものです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉』366頁

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2019年(令和元年)8月23日(金曜日)

**心** 「明るく楽しい生活」のために  
 私たちは、誰もが健康で明るく楽しい日々、心豊かな人生を望んでいます。  
 そして、このような日々は決して日常からかけ離れた遠いユートピアにあるのではなく、日々の人と人との関わりの中にあるのです。  
 そうした中で、人を自分の思いに従わせようとしても、相手は従わないどころか、反対に自分の思いを押しつけてくるものです。すると、自分と相手の「身勝手」や「自分勝手」がぶつかり

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉3666日」  
 合い、人間関係がギクシャクするでしょう。これでは、明るく楽しい生活とはいえません。心豊かな人生を送るには、日常生活の中でよりよい人間関係を育んでいくことが大切です。相手を自分のことのように思う温かい思いやりの心など、一人ひとりの道徳的な心づかいが、人と人、心と心を結びつけ、よりよい社会を築く力にもなっていくのです。

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**  
 道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
 E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2019年(令和元年)8月30日(金曜日)

**心** 「心の声」が聞こえますか  
 人は子供が誕生するとき、「無事に生まれてほしい」と、ただそれだけを祈ります。そして、無事に生まれたわが子を抱くと「ああ、よかった」という思いで心は満たされ、その後は「這はえは立て、立てば歩めの親心」というように、子供の成長を楽しみにしていくでしょう。しかし、子供に自我が芽生えるころから、親の気持ちにも変化が生じてきます。言うことを聞かないので感情的に怒ってしまう、躰(しつけ)がうまくいかずにイライラ

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉3666日」  
 する、動作の遅い子供をせかしてしまふ、等々……。  
 時には厳しい躰も必要になるでしょうが、そうしたときこそ親は自分の心をよく見つめなければなりません。子供は親の心を敏感に感じ取っているのです。親は子供の視線に立ち、子供が何を求めているかに思いをめぐらせる心の余裕を持ちたいものです。そうすれば、きっと子供の「心の声」が聞こえてくることでしょう。

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**  
 道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
 E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2019年(令和元年)9月6日(金曜日)



一对二十九对三百

二十世紀の半ば、米国の損害保険会社に勤務していたハイソリティは、労働災害の発生状況を調べた際、ある法則を発見しました。それは、人命に関わるような重大事故一件の背後には、二十九件の中規模事故があり、さらにその背後には三百件の小規模事故、あるいは「ヒヤリ」または「ハッ」とした未然事故があるということです。これは後に「ハイソリティの法則」と呼ばれるようになりました。

職場で起こる不祥事もこれに

道徳で人と社会を幸せに

基ついて考えると、その背後には数多くの「好ましくない小さな行為」があるということです。例えば、落ちているゴミを拾わない、小さなミスを報告しないなど……。こんな「ちよつとしたこと」でも、それを放置していくと、心の油断がやがて不祥事を招いていくのではないのでしょうか。日々、小さなことでも疎(おろそ)かにしない心の姿勢を持ちたいものです。

『「ニューモラルの心を育てる言葉366日」』

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2019年(令和元年)9月27日(金曜日)



本当の「思いやり」

「相手の気持ちになつて考える」「相手の立場に立つ」という言葉をよく耳にします。しかし、なかなかそうした気持ちになることは難しいものです。自分に都合のよい手段や方法にこだわり、見栄や世間体を優先させた、形だけの一方的な思いやりや励ましは、相手の心を傷つけ、負担を感じさせることにもなりかねません。

人の役に立ちたいという思いを行動に移すときは、お世話をする相手に対して絶えず心

道徳で人と社会を幸せに

を向けることが大切です。自分が満足するのではなく、その人の置かれた状況に心を配り、どうしたら喜びや満足、安心を与えることができるのかを考えることが、本当の「思いやり」なのではないでしょうか。お互いが相手の気持ちを察しながら、心を通わせていったとき、そこに優しく温かい人間関係が生まれていくことでしよう。

『「ニューモラルの心を育てる言葉366日」』

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155